

平成30年度 第1回 豊岡市子ども・子育て会議 議事要旨

日時	平成30年 8月21日（火） 13時30分～16時10分	
場所	豊岡市役所 7階 第3委員会室	
出席者（委員）	横川会長、大木本副会長、小山委員、中村委員、神尾委員、松原委員、大田委員、西村委員、中嶋委員、阪根委員、今井委員、上崎委員、與田委員、間委員、久保川委員	
（事務局）	堂垣次長、宮本課長、福富参事、山根参事、富岡参事、恵後原主幹、吉谷主幹、安原係長、谷垣係長、仲義係長	
欠席者（委員）	谷垣委員、藤井委員、西垣委員	
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 委員の任命（辞令交付） 4 委員紹介 5 正副会長選出 6 議 事 (1) 報告事項 ア 教育・保育の利用状況等について 資料2-1～5 イ 放課後児童クラブの利用状況等について 資料2-6 ウ 地域子ども・子育て支援事業の取組状況について 資料2-7 エ 子ども・子育て支援事業計画のH29実施状況と評価について 資料3、4 オ 小規模保育事業の応募状況について 資料5 カ 豊岡市幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画の策定について 資料6 7 その他 (1) 第2期豊岡市子ども・子育て支援事業計画について (2) 次回の会議日程について (3) その他 8 閉 会	
配布資料	資料1	豊岡市子ども・子育て会議委員名簿
	資料2-1	平成27～31年度の児童数（実績値と計画値）
	資料2-2	平成29年度 幼稚園・保育所・認定こども園の開設・入所・待機児童の状況
	資料2-3	教育・保育に関する量の見込みと就園実績
	資料2-4①	保育所初日在籍入所児童数一覧表（H30.3.1現在）
	〃 ②	保育所初日在籍入所児童数一覧表（H30.8.1現在）
	資料2-5	幼稚園別園児数（H30.3.1 H30.8.1現在）
	資料2-6	放課後児童クラブの量の見込みと確保状況
	資料2-7	地域子ども・子育て支援事業の取組状況

- 資料3 豊岡市子ども・子育て支援事業計画 平成29年度実施状況と評価
- 資料4 第3次とよおか教育プラン 平成29年度実践計画最終検証総括シート
- 資料5 小規模保育事業の募集状況等について
- 資料6 豊岡市幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画の策定について
- 参考資料1 子ども・子育て支援新制度の概要
- 参考資料2 市町村子ども・子育て支援事業計画
- 参考資料3 豊岡市子ども・子育て会議条例
- 参考資料4 子ども子育て会議傍聴要綱

議事要旨

1 開会	開会の宣言（事務局）
2 あいさつ	<p>堂垣教育次長あいさつ</p> <p>本日は公私とも大変お忙しい中ご参集いただき有難うございます。</p> <p>豊岡市では平成27年の3月に、就学前の教育・保育と地域の子ども・子育て支援事業を総合的に推進するための5か年計画として、豊岡市子ども・子育て支援事業計画を策定した。この計画は、保護者、地域の子ども・子育て支援事業者、学識経験者で組織する子ども・子育て会議を設置し合計9回の審議を経て策定したもので、昨年度は中間見直しを行った。今年度は、2020年度からの第2期計画を策定するため、子どもを持つ保護者を対象としたアンケートを実施する。</p> <p>さらに、来年10月から実施予定の就学前幼児教育の無償化により保育ニーズや放課後児童クラブのニーズが高まると予想され、対応として豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画を策定することとし、今年度はこの準備をしていく。この計画でより良い就学前の教育・保育推進のための基本的な方向性と具体的な方策を示していく。</p> <p>皆さまには、支援事業計画のみならずあり方計画についてもご審議いただきたいと考えている。大変盛りだくさんな会議になるが協力をお願いしたい。</p>
3 委員の任命	委員の任命、辞令交付（代表受領：横川委員）
4 委員紹介	各委員自己紹介・事務局自己紹介
5 正副会長選出	<p>会長：横川委員 副会長：大木本委員（事務局提案、承認）</p> <p>子ども・子育て会議の意義・役割等について事務局より説明</p> <p>参考資料1 子ども・子育て支援新制度の概要</p> <p>参考資料2 市町村子ども・子育て支援事業計画</p>
6 議事	<p>(1) 報告事項と質疑応答</p> <p>事務局 以下のア～ウにつき資料に沿って一括説明</p> <p>ア 教育・保育の利用状況等について・・・資料2-1～5</p> <p>イ 放課後児童クラブの利用状況等について・・・資料2-6</p> <p>ウ 地域子ども・子育て支援事業の取組状況について・・・資料2-7</p>

- 会長 ただいまの事務局からの説明について質問等はありませんか。
- 委員 資料2-5に幼稚園別の園児数の推移があるが、どこの園も入園者数、就園率とも低い。対象児童数に比べて入園者数が少ないということは、在宅の子どもが多いということか。就学前の子どもたちの状況を大まかに教えてほしい。
- 事務局 本市の就学前の児童は、幼稚園（4、5歳児のみ）、認定こども園、保育園（認可外園を含む）、家庭保育の4パターンに分けられる。
- 事務局 幼稚園は午後2時までの預かりで、認定こども園の長時間児・保育園は長い場合だと、早朝から午後7時くらいまでの預かりとなっている。昨今、就労する母親の増加に伴い、長時間子どもを預かる認定こども園・保育園への入園が増えているため、幼稚園の就園率が下がってきている。
- 委員 幼稚園と保育園の預かり時間には差があるので、保育園のニーズが増加傾向であるのは理解できる。以前は幼稚園・保育園は家庭で子育てできない親が預けることに加え、友達を作らずに小学校に上がるのは子どもにとってマイナスのイメージがあり、友達と一緒に小学校に入学できるようにという意味でも幼稚園や保育園に行かせる傾向があったと思う。現在、子どもを通園させず、家庭で面倒をみている人はどれくらいあるのか。
- 事務局 お問い合わせ主旨は4、5歳児のことと思うが、特別な事情がない限り4、5歳児はいずれかの園に通園している。
- 委員 私は現在、めぐみ幼稚園の評議員をしている。めぐみ幼稚園は、今年は青少年長合わせて30人だが、ひかり幼稚園は、それぞれ8人ずつで16人、うちどちらかは全員女兒。すると自分の息子を幼稚園に入れたいが、女兒ばかりだから保育園や認定こども園に入園させることがあるようだ。また、預かり時間のこともあるので幼稚園に入れる人が減ってきている。全体的にシステム自体を見直さないと、幼稚園児がどんどん減っていくのではないかと心配している。
- 事務局 そのようなこともあり、幼稚園は午後2時までの預かりであるが、5歳児については、放課後児童クラブも午後4時までには利用できることにしている。早い時間に仕事が終わる母親については、幼稚園が終わったあと、放課後児童クラブを利用して、子どもを預けながらの勤務が可能な状況である。
- 委員 資料2-7の放課後児童クラブ・放課後子ども教室、この2つのうち放課後児童クラブはどこにも設置されているが、放課後子ども教室7か所というのはどこに設置されているのか。
- 事務局 あと1つ、赤ちゃん訪問で対象586件、訪問534件で52件が訪問されていないが、訪問できなかった家庭へのその後のフォローについて教えてほしい。
- 事務局 放課後児童クラブは、親が就労している放課後留守家庭の小学生を預かるが、放課後子ども教室は、親の就労等に関係なく、放課後の居場所づくりとして実施している事業である。八条・竹野・八代・清滝・出石（出石はB&G海洋センターにて三校区出石地域全体を対象としている）・高橋・資母の7か所で実施している。
- 委員 放課後子ども教室は、放課後留守家庭であるかどうかは関係ないということか。
- 事務局 はい。
- 事務局 放課後児童クラブは、保護者の就労により放課後に小学生を見ることができない

家庭の子どもを預かるが、放課後子ども教室にはどなたでも参加してもらえます。

委員 放課後子ども教室は地域の希望で設置しているのか。

事務局 地域の中で、地域の方に今の7か所の運営をお願いしている。

委員 赤ちゃん訪問の関係は健康増進課の所管なので、私の承知している範囲でお答えする。対象家庭数が586で訪問できたのが534、この差の52例については、実態として訪問はできていないが、連絡は電話等で、基本的にはほぼ取れている。ここでの対象家庭は生後4か月までの乳児のいる家庭で、この4か月の間では難しくても、そのあと4か月児健診が必ずあり、ほぼ100%受診されているので、その間の電話連絡と4か月児健診時とで実態の把握はできている。

委員 これは言葉上の問題だが、資料2-7の13放課後子ども教室の欄に「地区公民館等において」とあるが、今は地区公民館という名称はなく、コミュニティである。

先日、行政改革委員会に出席したところ、放課後子ども教室をコミュニティへ委託することが決定したという話だったが、現況でコミュニティでできるのか疑問である。今29のうちの7つが実施されているが、あと22のところは実際にどれだけできるのかと非常に懸念している。

委員 行革の会議では、行政だけでは大変なのでコミュニティの方にとということも考えている、はっきりとはしてないが、追々そのような形を示唆するとの話だった。

事務局 補足させていただく、もともと放課後子ども教室は、地域のボランティアの方々の運営による組織であり、地区公民館の行事ではなかった。当初11か所あったが、後継者不足等で事業の継続が難しく、4か所減って今は7か所になっている。コミュニティセンターへの移行に向けた協議の中で、確かに放課後子ども教室も地域でやってもらえるのではという議論はあったが、最終的には全てのコミュニティセンターそれぞれに地域の事情もあり、市が望む事業の受け入れが可能かどうか分からないため、その話はストップしていると思う。行革は、放課後児童クラブのことと思う。

委員 この行革会議は先週8月17日にあった会議。コミュニティに関わる者の一人として、実際そういうことが可能かと考えると、とても難しいのではと感じる。

事務局 資料2-1～3について補足説明
(初めての委員には理解しにくい言葉・資料の見方等について解説)

委員 2-3の資料の「学校教育の利用希望」という欄はどういうものか。

事務局 これは、子どもの状態でなく、親の就労状態の区分。両親どちらもフルタイムで働いている場合、保育認定になるが、その両親は子どもを幼稚園に行かせたいという場合「学校教育の利用希望」に区分けして計画を作るとというのが国の考え方。

しかし、豊岡市では子どもの状態で認定しており、両親の就労状況に関わらず、幼稚園に行く人、認定こども園の短時間を希望する人は全て1号認定としているため、計画の中間年の見直しの際に、この欄は空白とした。県の様式を兼ねているため欄が残っているが、削除可能な欄である。

会長 なくした方がわかりやすい。

- 会長 今、現状を詳しく教えてもらい、幼稚園への入園児が減り2号が増えてきていることは分かった。結局、今、待機児童が63名いるということでよいか。
- 事務局 8月1日時点で、3月末までの入所の希望者の見込み、今年度中の見込みを含めてそれだけいる。入所月の希望はいろいろなので、8月1日現在での入所申込者のうち、3月1日時点で63人の待機児童が出る見込みということになる。
- 会長 今現在、8月1日時点で実際に入れていない子は何人いるか。
- 事務局 36人いる。
- 会長 やはり待機児童は昨年より増えているという認識でよいか。
- 事務局 はい。
- 会長 事務局としては、幼稚園入園児の減少・待機児童の増加、そこを何とかせねばという意見になると思うが、ア・イ・ウの結果を受けて、豊岡市の子ども・子育て支援の総括について事務局としての考えをお聞かせ願いたい。
- 事務局 全体を通し、今現在も待機児童が発生しており、昨年度と比較してその数も増えている。その解消のため、昨年度から小規模保育所（0～2歳児を預かる定員が19名までの保育所）の運営事業者を公募し、現在2か所設置している。今年度も来年4月開設に向け、もう1か所開設する予定で公募している。今年4月にスマイリーハウス保育園が開設されたが、まだ保育ニーズに対応した量の確保はできていない。また地域によって待機児童の発生の仕方が違い、多くは旧豊岡地域に発生している。それらを踏まえ、小規模保育事業の取り組みをしているが、まだ十分な補充はできてない。保育士不足が全国的な問題となっているが、豊岡市でも保育士の確保が厳しい状況で、課題として解決していないのが現状である。放課後児童クラブも、市内の全小学校区で設け、支援員を配置して受け入れているが、就労する親の増加に伴い、利用希望者も年々増えている状況であり、開設場所や支援員の確保に苦慮している。待機児童は7名ほど出ているが、状況を見て順次受け入れ調整中であるが、この先を考えるとまだまだ十分な量の確保には至っていない。
- 事務局 エ 子ども・子育て支援事業計画のH29実施状況と評価について・・・資料3・4に沿って説明
- 会長 支援事業計画・29年実施状況と評価について説明いただいた。たくさんあるので、それぞれの関係箇所とか、そういうところでご意見があればお聞かせいただきたい。
- 委員 参考までに教えてほしい。とよおか教育プランのシートの関係で検証委員が3名おられるようだが、どういう立場の方が検証委員をされているのか。内部の方か外部の方か。
- 事務局 学校関係の先生方、園の先生方、PTAの方、それから学識経験者である。
- 委員 3名ではないのか。チェック欄は3つだが。
- 事務局 それぞれの施策についてグループ分けをして、それぞれの項目について担当を決めてもらい、3名ずつで検証していただいている。項目ごとに担当の委員が違い、総数としては10名ほどおられる。

- 会長 1頁の教育保育の質の向上というのはすごく大事だと思う。その中の項目のひとつに「英語遊び保育の推進」がある。これの是非はともかく、その中に園児へのアンケートとの記載があるが、子どもに聞いたということか。
- 事務局 4歳児・5歳児を対象に英語遊びをしているが、この4歳児・5歳児に対してアンケートを実施した。アンケートの質問は3つで、1つが「英語遊びは楽しかったですか」、2つが「英語は好きですか」、3つが「英語をもっと話してみたいですか」。これらの質問を先生に1つずつ読み上げてもらい、園児に伝えてもらうという形式で実施した。ここでは「英語遊びは楽しかったですか」という項目に着目し、そのことについて記載している。
- 会長 楽しかったかという問いにみんなが「はい」と言ったからそれで良い、というのは安易すぎる気がする。楽しいというのは前提として必要だと思うが、楽しかったらそれで良いのだろうか。どういう評価をすればいいのか難しい。
- 委員 豊岡市ではこの英語遊びという、あくまでも遊びの中で英語に触れさせるという取組みをされており、遊びなので楽しいのが大前提であるが、その中でも96.6%の子どもが楽しいと感じたことは評価できるのではないか。残りの3.4%がどのように感じたかも知りたい。
- 委員 とよおか教育プラン25頁の施策⑤、過去の災害の教訓を踏まえた防災教育という点で中間結果としてAという評価だが、具体的には学校側が実施する形のものを評価されたのか。
- 事務局 過去の災害の教訓、特に豊岡では23号台風もあり、東北の震災なども踏まえて、毎年メモリアルデーを設けて、いろいろな取組みを進めている。全学校でそれに合わせた避難訓練、講師を招いての講演などをずっと続けてきており、それについて学校も含めて担当課でAという評価をさせていただいた。
- 委員 防災に関する学校側の取組みの姿勢はあるが、「子どもたちに向けて今ひとつ具体的なものが見えない活動が多いのでは」と聞いている。避難訓練自体は具体的な話だが、実際にそれを通して災害に対しどんな備えをし、考え方を持って動くのが徹底されているのかという点が不十分ではないか。Aという評価であるが、具体的な課題意識を持って取り組むという点で具体性をもう少し出してほしい。
- 事務局 防災教育については、避難訓練等も毎月実施するなど多くの回数を実施し、実際に子どもたちに動いてもらうよう学校の方でも取組みを頑張っている。また、地域との関係として、毎年8月の市民総参加訓練への参加、特に中学生には地域の中に主体的に関わって役割を担い、一緒になって防災の活動をするということを推進しており、毎年参加率が増えている状況もある。小学生についても極力参加させ、実際の地域の中での防災の訓練・役割りを経験するようにしている。学校では、PTAとも連携して、地域の見回り、特に夏休み等については、通学路の点検等、各学校と保護者の方、警察等も入る場合もあるが、一体となって実施しており、学校も先生も子どもたちへの指導に努めている状況だと認識している。
- 事務局 オ 小規模保育事業の応募状況について・・・資料5 に沿って説明

事務局 小規模保育所とは、6人～19人の範囲で定員を決められる0歳児～2歳児を対象とした施設。昨今0・1・2歳児の保育所利用希望の増加により待機児童もここを中心に発生している。ただ、子どもの年齢に応じて保育士の人数の定めがあり、0歳児は子ども3人につき1人が必要のため、保育士の確保が非常に厳しいという事情もあり、最大限の19人定員で募集したが、保育士の確保、さらに人数に応じて面積の定数も決まっているため、それらの確保等の問題もあり、結果として応募がなかった。このため、再募集に際しては、定員に12～19人の範囲へ幅を持たせ、合わせて市内の事業者という条件を外して、現在募集している。

委員 その保育士の確保が非常に難しい現実問題をどのように考えているか。

事務局 こども育成課としては、今年の4月より幼保政策室を新たに設けて様々な課題に取り組んでおり、保育士等確保推進事業についても実施しているが、保育士不足は非常に深刻な問題であるため、引き続き重点的に取り組んでいく。

事務局 カ 豊岡市幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画の策定について・・・資料6に沿って説明

委員 いわゆる待機児童を少なくしたい、ゼロにしたい、となると、現実問題として働きたい主婦の方々が大変多いわけだから、結局イタチごっこになるような感じもするが、対策としてはどのように考えているのか。

事務局 今後実施するアンケート結果などに基づいた将来のニーズ量を確保できる方策を作ることになる。しかし、0歳児は子ども3人に1人、1歳児は子ども6人に1人の保育士が要するなど、アンケート結果に出る希望人数を全部受け入れるには保育士をさらに何人増やさないといけないかという課題が必ず出てくる。それを現実的にどう対応していくのかは、専門家の意見も聞きながらこの会議の中で諮っていきたい。言うは易し行うは難しで、今でもギリギリの施設の面積をどう拡張するか、また、無償化の影響がどの程度インパクトがあるのか等々問題は大きい。非常に難しく手作りの資料では政策は打てないので、プロのコンサルの力を借り、幼児教育の専門家も含めいろいろな資料を基に方策を検討していきたい。

委員 今の説明を聞くと、小さい子どもを持つ母親も子どもを預けて働くことを前提で考えられているようだが、中には家でゆっくり育てたい母親もいると思う。働く必要のある母親ももちろん多いが、家でゆっくり育てたい母親を煽るような形ではあってはならない。例えば、豊岡市ではこんな子育て支援があるから安心して家で子育てできるということになれば、子どもを園に預ける人が減るかもしれない、結果的に待機児童の解消にも繋がるのではないか。時代に逆行するが、何が何でも預けるのではなく、預けなくても安心して育てられるような新たな豊岡モデルがあればと思う。

会長 時間が来たのでここまでとする。多くの貴重なご意見をいただき、感謝する。

7 その他 (1) 第2期豊岡市子ども・子育て支援事業計画について

事務局 第1期の計画期間が来年度で終わることから、第2期計画の作成に着手すること

<p>事務局</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>会長</p>	<p>になる。先ほどこの子ども・子育て会議の役割の中で述べたとおり、皆さまにお世話になるのでよろしくお願ひしたい。</p> <p>(2) 次回の会議日程について</p> <p>今回は、今年度実施する市民アンケートの内容検討及びあり方計画の諮問と検討部会の設置などについて協議をお願ひしたい。アンケートをできるだけ早く実施したいため、10月から11月初旬に開催したいと考えている。具体的な日程は会長と協議、決定のうえなるべく早く案内するのでよろしくお願ひする。</p> <p>1点お願ひがある。資料で児童数は分かるし、保育園・幼稚園への入園児数も分かるが、実際に例えば5歳児なら5歳児が、3歳児なら3歳児が、幼稚園・こども園・保育園・在宅とどんな割合でいるのか、分かりやすい一覧があればいただきたい。</p> <p>次回に提示できるよう調製する。</p> <p>参考資料として提供いただければ大変ありがたい。</p> <p>最後に、副会長から、閉会のご挨拶をいただく。</p>
<p>8 閉会</p>	<p>閉会の宣言（副会長）</p> <p>本日は多くのご意見ご協議をいただき有難うございました。第1回ということで本日の会議では29年の状況と結果、またその評価等についても勉強させていただいた。いろいろ見えてきた課題について、次回からが本当の審議の場となると思っている。どうかよろしくお願ひする。</p>